

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878

(第3種郵便物認可)

中 旬 乗 昇

「木に興味はありますか」陛下が少女に

両陛下が「やかに手を振って会場に到着すると、出席者が手にした日の丸の小旗が一斉に揺れた。「私たちの心ごとと愛知へ、よきことお越しくださいました。」子どもたちが歓迎のメッセージを送った。

陛下は式典のお言葉で「森林づくりの輪が、こゝ愛知の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願う」と述べ、スギ、クスノキ、フモトミズナラを植樹した。皇后さまもシテラを植えた。作業の合間には、介添えの「みどりの少年団」の子どもたちと言葉を交わす場面も。歌や踊りで大会テーマを表現したア



全国植樹祭で種をまかれる天皇陛下＝いずれも2日、愛知県尾張旭市の県森林公園で

愛知県森林公園（尾張旭市、名古屋守山区）で2日に開かれた第七十回全国植樹祭。即位後初の地方訪問となる天皇、皇后両陛下は、地元の子どもたちに笑顔で声を掛けられ、会場は和やかな雰囲気包まれた。令和となって初の大会を通じ、出席者らは豊かな森を未来へ引き継ぎたい思いを新たにしました。●面参照



豊かな森 守る 継ぐ

若き担い手が宣言「森の理解者に」

式典では、愛知県内の高校で農林水産を学ぶ生徒6人が、3人ずつ声をそろえて大会宣言を読み上げた。「健全で活力ある森林を未来に引き継ぐ」と、豊かな森づくりと木材を利用した都市づくりへの決意を高らかに宣言した。

安城農林高森林環境科3年の牧紅葉さん(17)は、5月末に終えたばかりの森林での間伐実習の経験を胸に臨んだ。実習では「手入れされていない森林がい

っぱいある。きれいに見えて、上の方が腐っている木もあり、改めて林業の大切さを感じた」という。

幼いころからキャンプなどで森に親しみ、将来は森林で働きたいと同校に進学して学ぶ。宣言では「未来に引き継ぐ」の言葉とともに「森林、林業の役割や木材利用の意義について積極的に学び、よき理解者となります」との誓いに自身の未来を重ね、力を込めた。

出席者らもそれぞれ思いを新たにしました。尾張旭市で自然について考える「環境フォーラム」を開く市民団体代表の高橋賢一さん(78)は式典後、「パワーをもらった。これからも活動を頑張る」。森林公園の自然観察会で案内役を務める尾張旭市の出口慎治さん(72)、朝子さん(71)夫妻は、ボランティアとして来場者を県産のお茶でもてなし「式典の成功だけでなく、植樹祭の後が大切」と口をそろえた。

「令和元年は新しい年がよい。色や形ではよく見えるわけではなけれど時代は改まり令和元年である。時代を日記帳とすると元号は最初の一ページに書き込む目標に似ていよう。

近代は昭和まで立派な元号の後、戦争が書き込まれた。平成は戦争のない素晴らしい時代だったが、平らかならなくなる。大きな災害が起きてくる。美しい令和の巻も多難な埋められるかもしれない。

の「良い」だろう。前の時代の知恵を「つなげた」



「中日新聞」に掲載いただきました。下欄の写真は当取組班が撮影。

▲上から6行ですが記事が掲載されています。

中 野立所、天皇、皇后両陛下が植樹される場所。

出席者に配布されるバッグ



皇后陛下様

